

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス四日市北教室		
○保護者評価実施期間	R6年11月24日		～ R6年12月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	R6年11月24日		～ R6年12月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年12月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分理解し、発達や障害特性に応じて専門性のある支援を行っている。	定期的に研修に参加し、発達や障害特性への理解を深めるとともに、子どもたちとの関わりの中でよりよい支援ができるよう職員全体で意見を出し合い日々工夫・改善を行っている。	継続して研修に参加し、必要に応じて学校や関係機関と情報共有をし、統一した支援、よりよい支援ができるよう心がけていく。
2	日頃から子どもの様子や状況を保護者と伝えあい、保護者と共通理解をしている	お迎え時に保護者様へ様子を伝えたり、トレーニングや個別課題を受ける動画を見てもらい、教室の様子を伝えている。また1年に3回面談を行い、ご家庭や学校での様子の情報を聞いている。	トレーニングや個別課題の様子を動画で伝える取組は、開始して間もないため、今後も継続して取り組んでいく。また、継続して1年に3回の保護者面談を行い情報共有に努める。
3	業務改善を進めるため、職員一人ひとりがPDCAサイクルに参画している	職員は1か月ごとに個人の目標、教室目標を設定し、毎日振り返りをして達成できたかどうか、次はどうするかなどを考えPDCAサイクルを実施し、よりよい支援や業務を遂行できるようにしている。	個人の目標だけでなく、教室目標についても振り返り、結果を検証し、次の目標を考える時間を取る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の同年代の子どもと交流をする機軸が少ない	地域の違う年代の方と交流する機会はあるが、同世代と交流する機会を設けることが難しく、なかなか企画できていない。	子ども食堂でのボランティアを企画し、参加することになった。今後地域の様々な方と交流できる場がないか模索していく。
2	非常災害の発生に備えて定期的に訓練を行っている内容が保護者に伝わっていない	非常災害の訓練を行っているが、振り返りの文章のみで保護者の方へ伝えていたため詳しい内容があまり伝わっていなかった。	今後は訓練の様子を動画や写真で撮影し、お迎え時に動画で見てもらったり教室通信にその様子を載せることで取組内容を知っていただく。
3	父母の会の活動の支援、保護者会等の開催により、保護者同士の交流の機会を設けるなどして家族・兄弟への支援をする	保護者対象の情報交換会を開催しているが、参加者が少なかった。	引き続き保護者対象のイベントを企画し、チラシでの周知を行い、同時に口頭でも宣伝し、参加していただける人数を増やしていく。